

今月の1枚（7月）

星に願いを！（七夕 GRANSTA）

「マウナケアの上に傾く天の川銀河」（国立天文台提供、 撮影：藤原英明）

写真撮影・文とも 宮崎隆介（JRMN 会員）



日本リスク研究学会のシンポジウムに参加するため上京し、東京駅構内のいわゆる駅中ショッピングモールを探索していたら、〈銀の鈴広場〉で開催中（6／28～7／7）の「七夕 GRANSTA～星に願いを！～」の催しに出合った。国立天文台の研究者がすばる望遠鏡（ハワイ）の近くで撮影した天の川の特大写真が展示されていた。その素晴らしい写真の両側に青笹が飾られ、訪れた人々が用意され5色の短冊（金：お金、ピンク：恋愛、緑：仕事・学校、黄：健康、青：その他）に思い思いの願いを書き、結びつけるという粋なフェアである。わたしも黄色の短冊を手に取り、〈適飲適食で健康寿命を〉と今一番の関心事を願いにして飾った。〈願い〉というのは実現してほしいこと、実現させたい意志を形（文字など）や祈りにして、自分の心の中を客観視することだ。人は誰も自分にとって〈あらまほしくない〉ことを意識し、それに立ち向かい、〈あらまほしき〉ことを目指せるのは素晴らしいことだ。